

玉城町かわまちづくり計画

令和5年 6 月

目 次

市町村及び河川の概要	1
1. 町の概要	1
2. 町内の河川の概要	1
水辺とまちづくりに関する基本方針	4
1. 関連計画における河川の位置づけ	4
2. 基本方針	9
①現状・課題	9
②かわまちづくりの目指す姿	9
③基本方針	9
④計画対象範囲	9
⑤既往かわまちづくり計画とのつながり	10
⑥事業スケジュール	10
ソフト施策の個別施策計画書	11
1. 河川名	11
2. 施策の実施範囲	11
3. 施策概要	11
支援整備内容の概要（ハード施策）	12
1. 河川名	12
2. 整備範囲	12
3. 整備内容	12
ハード施策の個別整備計画書	13
1. 整備内容名	13
2. 整備概要	13
3. 整備の必要性、有効性	15
4. 整備の実現方策	15
5. 推進体制	15
6. 有効利用および維持管理	16
7. 特徴	16
その他特筆すべき事項	18
1. 玉城町かわまちづくり協議会	18
2. たまきかわまちワークショップ	19
3. ニーズ把握調査	20
4. 社会実験	21

市町村及び河川の概要

1. 町の概要	
①都道府県名	三重県
②市町村名	玉城町
③人口	15,092人 (令和5年4月末現在)
④面積	40.91km ²
⑤町の特徴	<p>玉城町は三重県の南部に位置し、温暖な気候と恵まれた自然が残っています。地形は伊勢平野の南部にあり、南部は丘陵地帯となっていますが、多くは平野が広がり、その大半を農地が占めています。古くから伊勢神宮への参宮客が集まる交通の要衝で、北畠親房と北畠顕信によって築かれ、戦国時代には織田信長の次男、信雄が天守を築いて居城としたとされる田丸城がある宿場町として栄えてきました。田丸地区、外城田地区、有田地区、下外城田地区のそれぞれの地区では現在も特色のある自治やコミュニティが形成されており、各地区には祭りなどの伝統文化も残されています。</p>
2. 町内の河川の概要	
①主な河川	<p>●宮川（一級河川宮川水系 延長 96km 流域面積 920km²）</p> <p>宮川は、その源を三重県多気郡の日ノ出岳に発し、大杉溪谷を貫流し、大内山川等の諸支川を合わせ伊勢平野に出て、河口付近で大湊川を分派し、伊勢湾に注ぐ一級河川です。</p> <p>上流部は、周囲を 1000m を越える山々に囲まれ急峻なV字谷を形成しています。上流部から中流部までの数 10km の間、標高数百 m 以下の山中を大きな蛇行を繰り返しながら流下し、両岸は特徴的な段丘地形となっています。下流部の平地に入ると川幅を広げながら、河口付近で大湊川を分派し伊勢湾に注ぎます。</p> <p>全国一級河川水質調査においては、何度も清流日本一となっており、全国有数の清流で知られています。しかし、古くから、洪水を起こして荒れ狂う「暴れ川」としても有名で、平成 16 年 9 月には台風 21 号による洪水では、支川横輪川周辺等を合わせて、234 戸の床上床下浸水被害を発生させました。</p> <p>自然環境については、瀬淵が連続し、水際にはワンドやたまりが形成され、瀬はアユの産卵場、ワンドはタナゴ類等の流れの緩やかな水域を好む魚類に利用されています。</p> <p>また、下流部には広大な高水敷があり、伊勢市により河川公園や各種スポーツ広場、あるいは採草地等として利用されています。特に、桜の名勝である宮川堤は、広大な公園として整備され、伊勢神宮に関わる伝統的な行事の陸曳の起点となっています。</p> <p>●外城田川（二級河川外城田川水系 延長 28.1km 流域面積 57.7km²）</p> <p>外城田川は、多気町の柝ヶ池に源を発し、玉城町の中心市街地を流下し、伊勢市小俣町付近で支川相合川と合流し、伊勢湾に注ぐ、総流路延長約 28.1km、流域面積 57.7km² の二級河川です。河川沿いに市街地が隣接しており、河川が散策で利用されるなど、地域住民にとって身近な空間となっています。</p>
②河川と市町村や民間事業者との関わり	<p>宮川は、伊勢神宮ともゆかりの深い河川で、沿川地域から親しまれており、高水敷は公園として広く整備され、地域住民の憩いの場となっています。現在でも、各地先においてボランティアによる清掃活動、イベント、祭り、釣りなどに活用されています。平成 25 年には、式年遷宮の市民参加行事である「お白石持行事」が行われました。これは宮川の川原から採集した「お白石」を陸曳、川曳で運び、正殿用地に敷き詰める行事です。</p> <p>河川環境面では、宮川流域をめぐる水量の確保や水資源の有効活用などの水問題、水質浄化や保水力豊かな森林の整備などの環境問題、自然環境と調和した産業の推進などの地域振興問題と広範囲にわたる課題に対して、平成 9 年より「宮川流域ルネッサンス事業」の取り組みを進めています。共通の理念、計画に基づき、流域住民と一緒に、総合的、一体的に取り組んでいます。</p>

③これまで実施済みの関連施策（河川名、箇所、実施年度、特色）

●中島地区利用推進事業（一級河川宮川水系宮川、中島地区、S50～62）

全国桜100選に選ばれる、桜の名勝として有名な宮川堤の前面の高水敷を整備し、併せて低水護岸整備を国土交通省が行い、駐車場、グラウンド、遊歩道といった公園整備を伊勢市が行いました。伊勢神宮に関わる伝統的な行事の陸曳の起点となっている他、毎年夏には花火大会も催されています。現在でも伊勢市の適切な維持管理により、良好な空間として市民に愛され、堤防上の桜並木と併せて週末は非常に多くの利用者で賑わう交流空間となっています。

●御菌ラブリバー公園整備事業（一級河川宮川水系宮川、御菌地区、H4～6）

宮川において、地域の交流拠点となるラブリバー公園が整備されました。具体的には高水敷整備や階段護岸といった基盤整備を国土交通省が行い、伊勢市が運動広場や憩いの広場等の公園整備を行いました。現在でも伊勢市による適切な維持管理により、多くの人で賑わう良好な水辺の交流空間として、市民に親しまれています。

●小俣水辺の楽校プロジェクト（一級河川宮川水系宮川、小俣地区、H8～10）

宮川にて地域活動や環境学習の拠点となる水辺の楽校（宮川親水公園）が整備されました。具体的には、国土交通省が河川内において、地域住民が水に親しむことができる護岸や活動の利便性向上のための緩傾斜堤防等のオープンスペースの整備を行いました。更に、歴史文化の再興を図る意味で、かつて宮川に存在した「桜の渡し」の船着き場を再現しました。伊勢市（旧小俣町）において、子どもの水辺として宮川親水公園の整備を行いました。現在では地元小学校の環境学習活動やカヌー大会などに活用されています。

●伊勢地区かわまちづくり（一級河川宮川水系宮川、川端地区・御菌地区・勢田川地区、H21～25）

平成25年式年遷宮に向けて、宮川水系全体をより親しみやすい環境に整えるため、水系全体を視野に「かわ」と「まち」が一体となった親水護岸や散策路等の整備を行いました（川端地区、御菌地区、勢田川地区）。また、ソフト支援により高水敷を利用したパーク&ライドを進め、式年遷宮における渋滞緩和に寄与しました。これらにより、伊勢市の歴史ある街並みの散策や既存の観光スポットの有効活用を促進しました。

●昼田地区水辺の楽校プロジェクト（一級河川宮川水系宮川、昼田地区、H28～R5 予定）

玉城町の宮川左岸河川敷において、地域活動や環境学習の拠点となる水辺の楽校を整備しました。国土交通省が親水護岸等の整備を行うとともに、玉城町が案内看板等の整備を行い、安全で楽しい水辺空間を創造し、子どもたちによる河川利用、体験活動の場を整備しました。日常的には散策やデイキャンプ、イベントとして天体観測会等が開催されており、自然体験の場として利活用が行われています。



高水敷の利用



せせらぎ水路の利用



水生生物調査の実施

④住民や民間事業者による河川利活用状況

日頃より散策やデイキャンプ等で利用されているほか、たまき水辺の楽校では、星空観察会やデイキャンプと音楽の融合イベントなどが地元主導の取組みで行われています。

●天体観測会

たまき水辺の楽校の多目的広場において、玉城町主催の天体観測会を開催しています。令和2年8月の観測会では、子供連れの11家族の参加が見られ、夏の星空を楽しみました。



天体観測(玉城町主催) (R2. 8. 22)

●伊勢神宮奉納全国花火大会

神宮に花火を奉納する唯一無二の大会として、昭和28年に斎行された第59回神宮式年遷宮を記念してはじめられました。

毎年7月に開催され、全国でも早い時期に開催されるこの大会は、北は秋田県、南は鹿児島県など、全国各地から選抜された花火師たちが神宮に奉納し、日頃の研鑽の成果を神都伊勢の夜空に放揚する「競技花火大会」となっています。

宮川の川端地区で打ち上げが行われ、毎年20万人の観覧者が訪れています。



水辺とまちづくりに関する基本方針

1. 関連計画における河川の位置づけ

玉城町かわまちづくり計画の上位計画としては、宮川水系の整備に関する国土交通省河川局の「宮川水系河川整備基本方針」や、中部地方整備局の「宮川水系河川整備計画」があります。

また、玉城町のまちづくりにおける河川の位置づけとして、「第6次玉城町総合計画」「都市計画マスタープラン」があり、連携して進める必要がある計画として、「玉城町観光振興計画」などがあります。上位・関連計画と玉城町かわまちづくり計画の位置づけを下図に示しました。

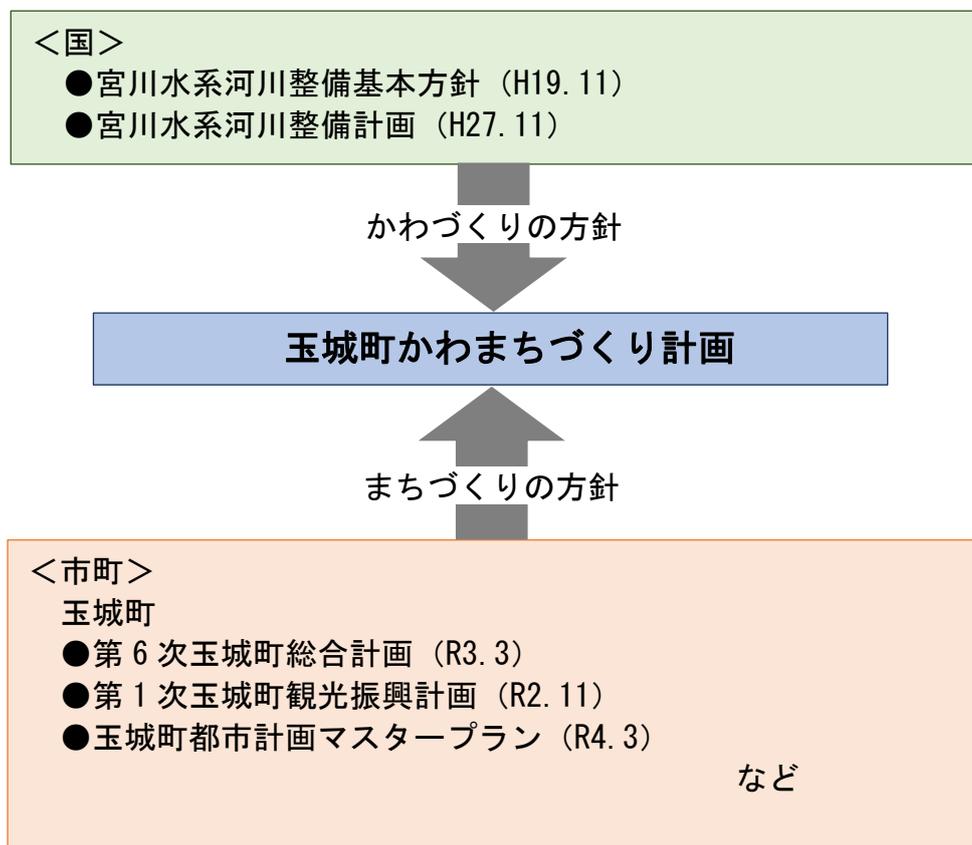


図 玉城町かわまちづくり計画の位置づけ

<国>

宮川水系河川整備基本方針（平成 19 年 11 月）

○計画の概要

河川整備の現状、森林等の流域の状況、地形の状況、砂防や治山工事の実施状況、水害の発生状況、河川の利用の現状（水産資源の保護及び漁業を含む）、流域の歴史・文化及び河川環境の保全等を考慮し、また、関連地域の社会経済状況の発展に即応するよう、環境基本計画等との調整を図り、かつ、土地改良事業や下水道事業等の関連事業及び既存の水利施設等の機能の維持を十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、段階的な整備を進めるにあたっての目標を明確にして、河川の総合的な保全と利用を図る。

○河川の整備の基本となるべき事項

- ①基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項
- ②主要な地点における計画高水流量に関する事項
- ③主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項
- ④主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

宮川水系河川整備計画（平成 27 年 11 月）

○計画の概要

宮川水系河川整備基本方針に基づいた当面の河川整備を目標とするものであり、その対象期間は、洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減、河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全における整備目標に対し河川整備の効果を発現させるために必要な期間として概ね 30 年間としている。

○宮川に関する具体的整備

- ①洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する整備
平成 16 年 9 月洪水と同規模の洪水に対して、家屋等の浸水被害の防止を図るため、堤防整備等を進める。
- ②河川環境の整備と保全
・人と河川との豊かなふれあいの場の整備
レクリエーション、身近な自然との触れ合い、憩いの場として活用される現状の河川空間を維持し、地域住民の利活用の促進を図るため、宮川堤や渡し跡などの歴史的遺産や、ラブリバー公園、宮川堤公園などの親水施設を活用し、地域住民との連携や宮川の上下流との交流を創出する場となる水辺の整備・利活用計画による、良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図る。

<市町>

第6次玉城町総合計画（令和3(2021)年度～令和12(2030)年度）

○まちづくりの基本的考え方

- ・ 継承・育成：まちの良さを守り育てる
- ・ 挑戦・希望：将来の希望につなげる
- ・ 協働・創造：みんなでもとに創る

○まちの将来像

だれもが安心して、元気に暮らせる ふるさと玉城

かわまちづくりに関連する事項

○施策体系

目標3：良好な環境の中で、安全に暮らせるまち

<環境保全>

①環境教育の推進

- ・ 住民の環境保全についての理解と関心を高めつつ、環境保全の行動へとつなげていくため、企業との協働や三重県環境学習センターとの連携による参加体験型環境講座などの環境教育を推進します。

②環境美化活動の推進

- ・ 田丸城跡クリーン作戦や宮川クリーン作戦などの清掃活動や花を植えるなどの美化活動等を継続して実施します。

目標4：まちの活力を高め、持続的に発展できるまち

<観光・交流>

①観光・交流資源の魅力化

- ・ 町内にある歴史、文化、自然、産業、食、人材などのあらゆる地域資源に着目し、観光資源の発掘と観光資源としての磨き上げを行い、観光ニーズに対応した観光メニュー及び観光コースの開発を促進します。
- ・ 農業観光施設であるアスパピア玉城をはじめ、各観光施設の魅力を高めるため、ニーズに応じた施設の整備や運営支援を行います。

②広域ネットワークの強化

- ・ 観光客の誘客を図るため、周辺自治体等と連携し、町外で開催される様々な物産展やイベント等への出展、共通コースや連携イベントの開催など、広域連携による誘客対策を進めます。

成果指標

指標	現状値	中間値	目標値
	2019年	2025年	2030年
観光レクリエーション入込客数（人）	265,901	280,000	300,000

※1：観光レクリエーション入込客数推計書、観光客実態調査報告書（県発行）

第1次玉城町観光振興計画（令和3（2021）年度～令和7（2025）年度）

○計画の目標値

指標	基準値（2019年）	目標値（2025年）	備考
観光目的の交流人口 （観光レクリエーション入込客数）	265,901人	280,000人	目標値は、玉城町第6次総合計画の前期基本計画の達成目標とする。

○期待される効果

- ①観光目的の交流人口の拡大や地域における経済効果（交流人口の拡大を目指し、人々を呼び込み消費活動を促進することで地域経済の活性化につなげていくことが重要となる）
- ②地域の魅力の増加（独自化やブランド化など）
- ③郷土愛の醸成や定住促進
- ④町民相互理解の増進（多分野にわたる合意形成と連携）
- ⑤地域づくりの活力への貢献
- ⑥町民と他地域との交流連携
- ⑦高齢者も楽しめる地域環境づくり

かわまちづくりに関連する事項

○基本方針1：観光資源の発掘と魅力向上

施策1：新たな観光資源の発掘、整備

1) 自然環境からの発掘

■身近な自然からの発掘

- ・主に地域住民（多面的組織などの団体との連携を含む）による自然環境の維持保全（水生生物や環境指標調査、親水イベントを含む）を図ります。

■里山、森林川の魅力発掘

- ・水辺の楽校の活用に努めます。

施策3：滞在型観光メニューの開発

■宿泊型体験メニューの開発

- ・宿泊を伴わないと体験できない星空観賞会やホテル観賞会、野菜の朝採り、卵の朝採りなどの早朝や夜間の体験メニューの開発を検討します。
- ・宿泊型体験メニューの開発にあたっては、農家民宿や民泊、又キャンプ場の検討に取り組みます。

■ツーリズムの推進

地域の生活文化に触れる機会の提供等により、個人参加型、体験型など多様化する旅行者ニーズへの対応に努めます。

<エコツーリズム>

- ・環境保全をテーマとする商品の開発に努めます。
- ・ホテルの観賞など自然と親しむ場の提供に努めます。

2. 基本方針

①現状・課題

玉城町におけるまちづくりの現状と課題は、以下に示すことが挙げられます。

(現状)

- ・玉城町は、伊勢参宮の宿場町、熊野古道の街道起点や田丸城跡を中心とした歴史文化に溢れる町となっています。
- ・宮川の清流を活用した水辺の楽校でのキャンプ利用が盛んに行われています。
- ・「玉城豚」や柿、いちご、米といった特産品の存在、アスパア玉城、玉城ふれあい農園といった観光スポットの存在等、新たな観光資源の開発を進めています。

(課題)

- ・魅力のある地域資源があるものの、H26をピークに観光入れ込み客数が減少傾向です。
- ・魅力ある資源を十分に活かしていないことから、地域資源を活用した観光・交流機能の強化が必要です。
- ・緩やかではあるが、人口減少が進行していることから、まちの活力を高め、持続的に発展できるまちづくりが必要です。
- ・地域で生まれた子どもを次代の担い手として育成するため、地域との連携による子どもの豊かな体験と学び場の充実や、多様な世代が参加して住民同士の活発な交流が生まれる機会を充実する必要があります。

②かわまちづくりの目指す姿

『清流宮川と玉城町の「自然」「歴史」「賑わい」の交流拠点の創出
～清流宮川から「賑わい」をまちなかへ～』

- ・新たな観光資源としての魅力アップによる観光交流人口の拡大
- ・様々な活用メニューを通じた世代間交流と活力向上による町への愛着の拡大（定住人口の維持）
- ・地域住民の憩いや安らぎの場、子供たちの環境学習の場等、地域住民のふれあい、交流の拡大

③基本方針

かわまちづくりの目指す姿を実現するため、次の基本方針に基づき、必要な施策を推進します。

基本方針1 宮川の持つ魅力を活かしたかわづくり

宮川で整備されている水辺の楽校や高水敷空間の利用施設を活かすとともに、豊かな自然環境や景観を保全し、多様な生き物との共生が図られるよう、これらの利用と自然環境が融合した河川空間づくりを推進します。

基本方針2 歴史資源や既存施設を生かしたかわとまちの回遊性の向上

玉城町内に分布する歴史資源や宮川河川敷内の既存施設をつなぐことで、河川空間とまちが一体となるような回遊性の向上を推進します。

基本方針3 宮川の新たな魅力の発信

宮川の特性を活かした新たなイベントの展開、SNSを活用した情報発信等、宮川の沿江市町が一体となった新たな魅力の発信を推進します。

④計画対象範囲

かわまち計画の対象範囲は、「たまき水辺の楽校（玉城町昼田地区）」周辺を対象とします。



⑤ 既往かわまちづくり計画とのつながり

平成 21 年度に申請された伊勢市かわまちづくり計画では宮川の川端地区、御園地区および勢田川で、式年遷宮を見据えてかわとまちが調和した整備が行われました。

こうした取組みを通じて、中心市街地と一体となった魅力ある水辺空間の創出が図られましたが、今回の対象とするたまき水辺の楽校の上下流では連続的な利用ができない状況であり、より広域的なまちづくりや観光の視点から、町との連携により既存施設を効果的につないでいく必要があります。

今回対象区間の施設整備を進めることにより、既存整備区間と合わせ広域的なネットワークの創出、利用空間の整備を進めることにより、河川空間の新たな魅力創出、河川利用のさらなる活性化が図られ、地域へ拡大していくものと期待しています。

⑥ 事業スケジュール

基本方針 1：宮川を持つ魅力を活かしたかわづくり

施策名	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
利用と自然環境が融合した河川空間の整備		設計						
			施工（国土交通省）					
					(部分) 供用開始			
					施工（玉城町）			

基本方針 2：歴史資源や既存施設を活かしたかわとまちの回遊性の向上

施策名	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
モデルルートの設定		モデルルートや発信方法の検討（玉城町）					活動の継続実施	
案内板の設置			ルート案内板の設置（玉城町）				活動の継続実施	
観光パンフレットの活用		「たまき旅」の利活用（玉城町）					活動の継続実施	
サイクルルートの利活用		サイクルルートの利活用（玉城町）					活動の継続実施	

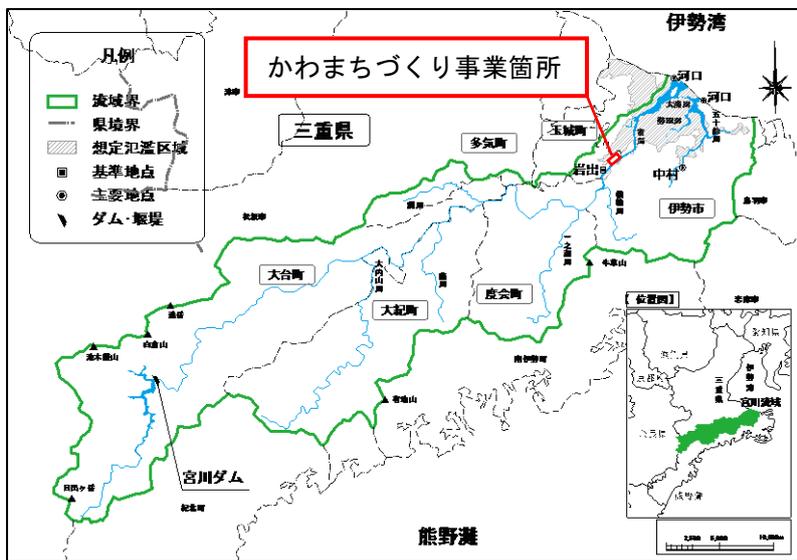
基本方針 3：宮川の新たな魅力の発信

施策名	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
新たなイベントの展開	社会実験（玉城町他）							
			社会実験、活用方法の検討（玉城町他）					
			都市・地域再生等利用区域指定（国交省、玉城町）					
			水辺で親しみを持てる環境学習・水生生物調査（国交省 玉城町）					活動の継続実施
			防災イベントの開催・歴史的治水施設の利活用（玉城町ほか）					
SNS を活用した情報発信		情報発信方法の検討、試行（玉城町他）					活動の継続実施	

支援整備内容の概要（ハード施策）

1. 河川名
宮川水系宮川
2. 整備範囲
たまき水辺の楽校周辺（玉城町屋田地区）
3. 整備内容
基本方針1：宮川の持つ魅力を活かしたかわづくり ・既存の利用施設のさらなる利用向上を図るため、高水敷の嵩上げ、管理用通路や船着き場の整備等を行います。

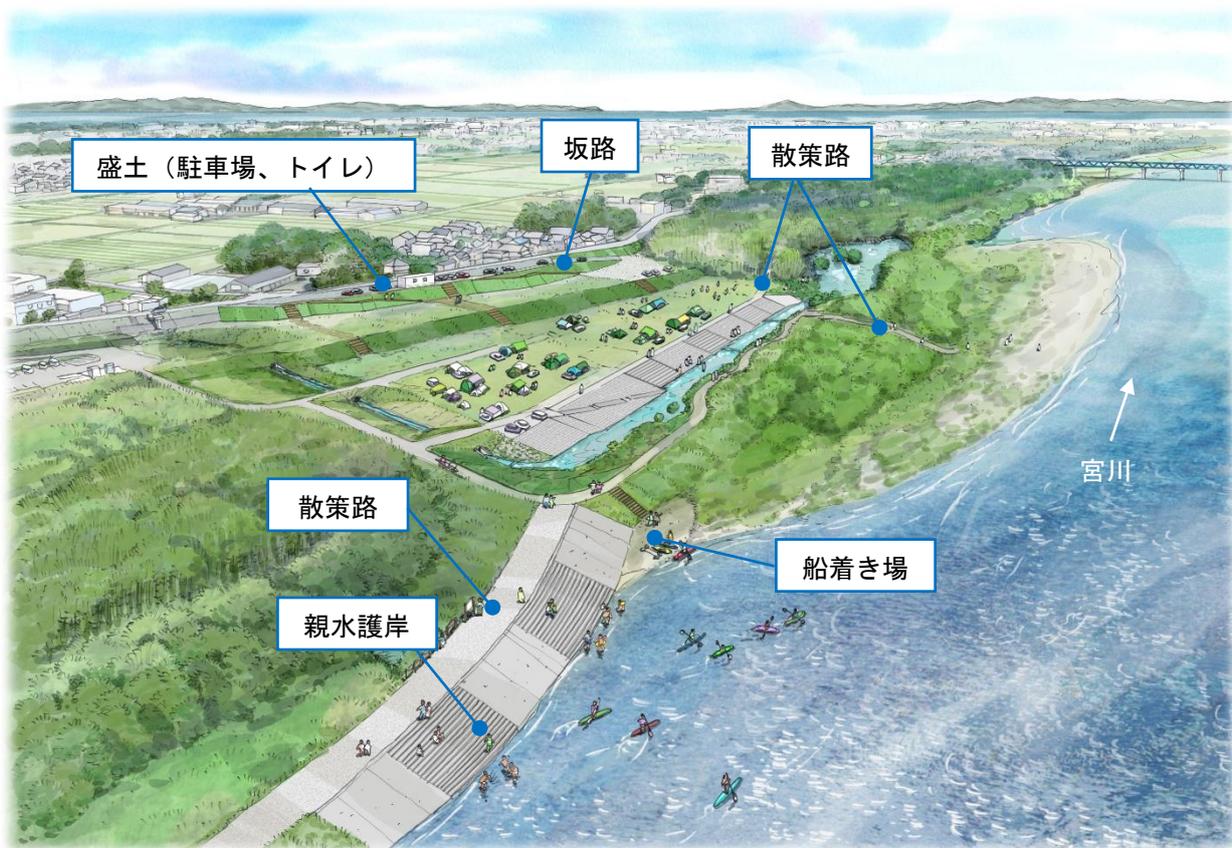
（参考）位置図



ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名
昼田地区水辺整備
2. 整備概要
<p>①高水敷利用スペースの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高水敷を盛土し、舗装することで、駐車場、トイレ等の施設整備、イベントスペースとしての利活用ゾーンとします。 <p>②自然体験、歴史体験の散策路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下流部のひょうたん池の自然や、上流部百間ばねを活用した歴史体験の場としての散策ルート及び利用ゾーンを整備します。 <p>③宮川に親しむ親水護岸整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー体験や宮川と触れ合える場として、船着き場及び散策ルートを整備します。
(平面イメージ)
(横断イメージ)

<整備の全体イメージ>



※資料はイメージを示すもので、今後変更する可能性があります。

3. 整備の必要性、有効性

- ・玉城町は、伊勢参宮の宿場町、熊野古道の街道起点や田丸城跡を中心とした歴史文化に溢れる町であり、歴史的施設や自然環境を利活用した観光振興等を進めてきました。
- ・また、昼田地区の水辺の楽校により、せせらぎ水路や多目的広場の整備を行ってきました。
- ・玉城町内に存在する魅力ある資源を十分に活かしてきれていないことから、沿川に良好な河川空間を形成している宮川を拠点として「かわ」と「まち」が連携した良好な交流空間として一連区間の完成を図ることにより、まちの活性化に寄与することが期待されます。

4. 整備の実現方策

●関連事業の整備計画

- ・宮川水系河川整備計画
地域住民との連携や宮川の上流との交流を創出する場となる水辺の整備・利活用計画による、良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図ります。
- ・玉城町都市計画マスタープラン
日常の生活で人々が川を身近に楽しめるよう、親水・水辺空間の整備や再生を推進します。
- ・玉城町観光振興計画
 - ・主に地域住民（多面的組織などの団体との連携を含む）による自然環境の維持保全（水生生物や環境指標調査、親水イベントを含む）を図ります。
 - ・水辺の楽校の活用に努めます。
 - ・地域の生活文化に触れる機会の提供等により、個人参加型、体験型など多様化する旅行者ニーズへの対応に努めます。

●整備工程

種別	事業内容	事業年度									
		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
協議会等	計画策定	■ 国交省・玉城町									
	フォローアップ (モニタリング等)		■	■	■	■	■	■	■	■	■
	利活用調整協議会(利活用、維持管理等)の検討			■	■	■	■	■	■	■	■ ■ ■ ■
水辺整備	詳細設計		■ 国交省・玉城町								
	施工			■	■	■	■	■	■	■	■
	利用・維持管理検討・調整				■	■	■	■	■	■	■

5. 推進体制

- ・令和4年9月28日、学識者、地域団体、玉城町、三重河川国道事務所等を含めた「玉城町かわまちづくり協議会」を設立し、地域の意向をかわまちづくり計画に反映しているところです。
- ・今後、「玉城町宮川利活用調整協議会(仮称)」を設立し、利用区域の利活用や管理運営に関するルール等の検討など、必要な事項について検討を予定しています。

6. 有効利用および維持管理

①施設の利用に関する計画

- ・ 「玉城町かわまちづくり協議会」において、構想段階から地域住民が参画しており、地域住民の継続的な利活用、維持管理が可能となります。
- ・ 今後は、「玉城町宮川利活用調整協議会（仮称）」を設立し、協議を重ねて活動を実施していきます。

②維持管理計画

- ・ 施設の占用及び維持管理については、玉城町が主体的に行います。
- ・ 出水等の災害に対する施設被害に関しては、国土交通省が支援し、玉城町が主体的に行います。
- ・ 日常の清掃等については、玉城町や地元住民、各種団体等により実施します。

7. 特徴

①効果指標の設定

- ・ かわまちづくりとして目指す未来像について、「まちの回遊性向上」「まちの賑わい創出」の観点について、評価指標（KPI）を設定します。
- ・ 目標水準は、玉城町の関連計画を踏まえて設定します。

観点	評価指標（KPI※）、目標値	関連計画・データ
まちの回遊性向上	観光レクリエーション入込客数 （2030年に300,000人）	第6次玉城町総合計画
まちの賑わい創出 （地域活性化、観光促進）	日常的利用者数	河川水辺の国勢調査（空間利用実態）
	昼田地区でのイベント数（開催日数）、イベント等参加者数	届け出資料（管理者側） 現場カウント（主催者側）
	「公園・広場・緑地が整っていること」の満足度（玉城町）（30%；2030年）	第6次玉城町総合計画

※KPI（重要業績評価指標）：取組み全体の目標（KGI）を達成するための取り組み状況、プロセスを評価するための指標
数値目標は、関連計画を踏まえた設定値であり、今後協議会等を通じて適宜見直す場合がある

②SDGs との関わり

SDGs（Sustainable Development Goals）は、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、平成27年（2015年）の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のことであり、令和12年（2030年）までを期限とする世界共通の目標です。

持続可能な世界を実現するために17のゴールと169のターゲットから構成され、経済・社会・環境を包含する統合的な取組を示しています。

我が国は、「SDGs実施指針改定版（令和元年12月20日）」のなかで、「現在、日本国内の地域においては、人口減少、地域経済の縮小等の課題を抱えており、地方自治体におけるSDGs達成へ向けた取組は、まさにこうした地域課題の解決に資するものであり、SDGsを原動力とした地方創生を推進することが期待されている。」としています。

以上のことから、玉城町かわまちづくりの目標と、「SDGsの目標」との関連を示すことで、本計画の実現によるSDGsの推進を目指していくことが必要とされます。



【かわまちづくりと関連性の強いSDGsの目標】

目標 11：住み続けられるまちづくりを

- ・安全で利用しやすい緑地や公共スペースの提供

目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

- ・効果的な公民、官民、市民社会のパートナーシップの推進

出典：引用：国際連合広報センターHP より

その他特筆すべき事項

1. 玉城町かわまちづくり協議会

かわまちづくり計画策定にあたって、地元自治会やまちづくり団体、観光、商工業及び関係者などから構成される「玉城町かわまちづくり協議会」を設立し、社会実験に対するアイデアや基本方針、施策事業に対する意見交換を実施してきました。

●玉城町かわまちづくり協議会の経緯

回数	日程	主な議題
第1回	令和4年9月28日	<ul style="list-style-type: none"> 玉城町かわまちづくり協議会で議論する対象地区 玉城町及び対象地区の現状 水辺の楽校トイレ概要（経過）について
第2回	令和4年11月16日	<ul style="list-style-type: none"> 社会実験結果について 利用者ニーズ調査について 本地区の現状と課題、目指す姿について 施設整備について ワークショップの進め方について 先進地域事例紹介
第3回	令和5年3月1日	<ul style="list-style-type: none"> 第1回、第2回ワークショップ開催報告 たまきかわまちづくり計画の全体コンセプトについて 社会実験の公募について
第4回	令和5年5月31日	<ul style="list-style-type: none"> 玉城町かわまちづくり計画（案）について 社会実験について 第3回たまきかわまちワークショップの結果について

●玉城町かわまちづくり協議会 委員構成

区分	団体名等
学識者	皇學館大学 准教授
産業観光関係者	玉城町商工会 事務局長
	玉城町観光協会
	地域活性化企業人（産業振興）
	地域活性化企業人（総務政策） （株）SMILE PIZZA
地域関係者	曾根区代表
	昼田区代表
事務局	玉城町建設課
	玉城町産業振興課
	玉城町総務政策課地域づくり推進室
オブザーバー	国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所



協議会開催状況（第1回協議会）



委員長挨拶

2. たまきかわまちワークショップ

宮川に関わりのある人たちで集まり、宮川でやりたいことについて意見を出し合い、かわまちづくり計画へ反映させていくことを目的として、たまきかわまちワークショップを開催してきました。

ワークショップの参加者は地域から自由参加として募集し、学識者のコーディネータからもご意見を頂いています。

●たまきかわまちワークショップの経緯

回数	日程	主な議題
第1回	令和4年12月17日	水辺の楽校の利活用方法について
第2回	令和5年1月28日	アイデアを実現するための整備内容について まちづくりとの連携について
第3回	令和5年3月6日	より良い利用を図るための施設整備として何が できるか（ハード・ソフト両面）

(第1回ワークショップ)



グループワークでの意見交換



グラフィックレコーダーによる取りまとめ

(第2回ワークショップ)



グループワークでの意見交換



各グループからの意見発表

3. ニーズ把握調査

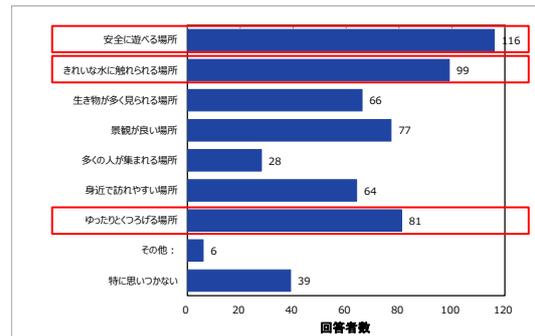
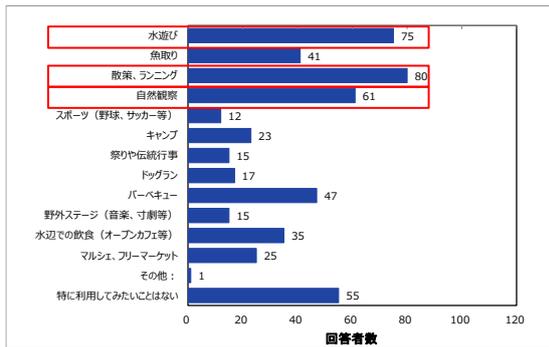
1) 住民アンケート調査

【実施概要】

- 調査目的：宮川の利用に対する現状の満足度と、今後の利活用に対する課題・ニーズの把握
- 実施方法：WEB
- 実施期間：令和2年7月3日～7月6日
- 対象者：WEB アンケートモニター（20歳以上の伊勢市、玉城町在住者及び来訪経験者）
- 回収数：300票
 [内訳：宮川右岸の伊勢市在住者 100票
 宮川左岸の伊勢市及び玉城町在住者 100票（伊勢市 68票、玉城町及び隣接地区 32票）
 伊勢市・玉城町以外の三重県及び愛知県在住者で宮川勢田川への来訪経験者 100票]

【「たまき水辺の楽校」を今後どのように利用したいか】

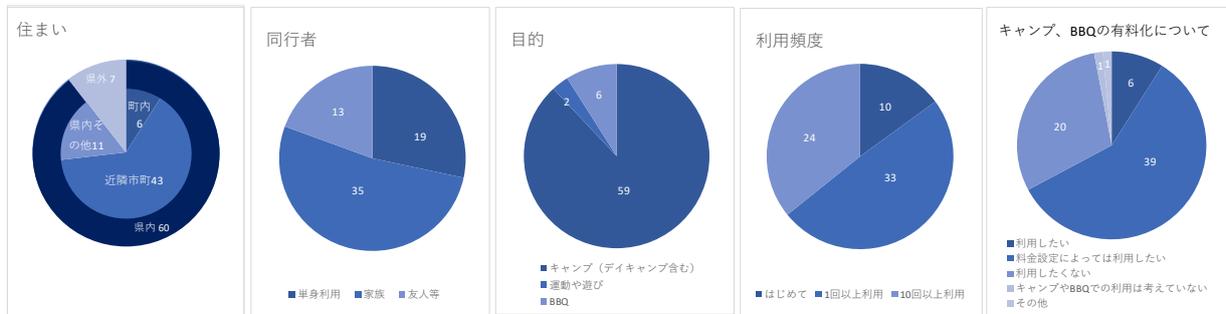
【「たまき水辺の楽校」がどのような場所であれば良いか】



2) たまき水辺の楽校利用者アンケート調査

【実施概要】

- 実施日：R4. 4. 27～5. 23（現地にアンケート回答用のQRコードを設置）
- 回収数：67票



○水辺の楽校でやりたいこと

- ・キャンプ
- ・バーベキュー
- ・自然体験（川遊び、天体観測、虫取りなど）
- ・地域の学校、幼稚園での活用

○要望・意見

- ・常設トイレ・水場の設置
- ・トイレが汚く使えない時があるのでキレイにしてほしい
- ・ベンチの修繕
- ・宮川に行けるよう整備してほしい
- ・フリーマーケットの開催
- ・予約制はしないでほしい
- ・全面芝生にしてほしい
- ・子供が水遊びをするので、手動式の地下水のくみ上げポンプ周辺での洗い物は禁止にした方がよい

・有料にした場合

- 除草やトイレ等の管理費用に当ててはどうか
- トイレ、シャワー、水場の環境整備を希望、車が通れないスペースの区画
- 整備と子供用遊具や広場
- 入口ゲート式の受付システム、もしくはアプリ申告型だと利用しやすい
- キャンプ場としての区画整理
- 殺風景過ぎるので木を植えたり、ベンチ、テーブルなどはどうか
- 防犯カメラの設置

4. 社会実験

1) 水辺で乾杯

【実施概要】

- 実施時期：R4.7.7 PM7時7分
- 参加者数：約40名



座談会



全員で乾杯！

2) ミナテラスキャンプ2022

【実施概要】

- 実施時期：R4.11.5
- 参加者数：約2,500人

MINATERRACE CAMP 2022

みんなを照らすPLAY・EAT・MUSIC

秋の宮川
水辺とロックな催し会



たまき水辺の楽校
三遊具康会館玉城町原田391-1

11/5
11:00~17:00

開催案内チラシ



オトテラスステージ



出店ブース

